

## 研究のまとめ

### 1 研究の成果

#### (1) 研究内容1 子どもに「問い」が生まれる工夫 に関わるもの

- 子どもが主体的に取り組むことができる課題提示や体験的な活動・題材を取り入れることにより、問題解決に必要な情報を取捨選択したり、解決すべきことの本質を捉えたりする力が高まった。
- 比較場面や日常生活を捉え直す場面を子どもの実態に応じて工夫することにより、既習事項や既有経験を振り返って問題を把握したり、それを基に自分なりに課題について考えたりする力が高まった。

#### (2) 研究内容2 子どもが自分の考えを伝える工夫 に関わるもの

- 伝える観点を明確にした上で、伝える準備を工夫し、様々な学習形態を取り入れることで、聞き手の目的や意図を捉えて整理したり、構成や表現を工夫しながら伝えたりする力が高まった。
- 情報を整理させる工夫や教具・問題の工夫を取り入れることにより、予想や仮説と結果を関連付けながら伝えたり、数、式、図、表、グラフなどの表現を用いて伝えたりする力が高まった。

#### (3) 研究内容3 子どもが考えを深める工夫 に関わるもの

- 話し合い場面における教師の意図的な関わりや、本時で身に付けた知識・技能を働かせる場面を工夫することで、他者の考えを受け入れて自分の考えに生かしたり、集団の考えを振り返ったりする力が高まった。

### 2 今後の方向性

(1) 「問い」が生まれたあと、子どもが「問い」をもち続けるにはどのような学習活動を展開していくべきか、研究を進める必要がある。

(2) 子どもの考えを深めるためには、思考を広げていく学習活動と、まとめていく学習活動について、どのような手立てがあるか研究を進める必要がある。